



【審査証明番号／有効期限】	BCJ-審査証明-55/2024年6月10日
【技術の名称】	2成分反応形アクリルゴム系屋根塗膜防水工法 「アロンコートSQ」
【依頼者（審査証明取得者）】	東亜合成株式会社

【技術概要】

「アロンコートSQ」は、アクリルゴムエマルジョンと特殊反応硬化材を一定割合で現場配合して防水材として使用する2成分反応形アクリルゴム系屋根塗膜防水工法である。

「アロンコートSQ」は、一般屋根用のSQ-S工法、既存の保護層を残す場合に適用するSQ-KS工法及びSQ-TK工法からなるものである。アロンコートSQを施工する部位は建築物の陸屋根及びバルコニーとし、適用下地はコンクリート、プレキャストコンクリート、ALC、既存防水層とする。なお、「アロンコートSQ」に用いられる防水材は、「建築工事標準仕様・同解説 JASS8防水工事1998年版（日本建築学会）の参考資料1：メンブレン防水層の性能評価試験方法」により、防水層としての基本性能を満足している。

表 アロンコートSQの工法の種別

アロンコートSQの工法の種別	特徴	改修標準仕様書
SQ-S工法	標準的な露出塗膜防水工法で、プライマーを塗布した後、補強布を併用してアロンコートSQ(防水材)を吹付け又は塗布し、仕上塗料を吹付け又は塗布する工法である。標準仕上げと防滑仕上げがある。	X-2
SQ-KS工法	既存の保護層を残す場合に適用する工法で、通気緩衝シート(アロン緩衝シート)を接着剤を用いて張り付けた上に、アロンコートSQ(防水材)を吹付け又は塗布し、仕上塗料を吹付け又は塗布する工法である。標準仕上げと防滑仕上げがある。	X-1*1)
SQ-TK工法	既存の保護層を残す場合に適用する工法で、通気緩衝シート(アロンTKシート)をアロンコートSQ Mixを用いて張り付けた上に、アロンコートSQ(防水材)を吹付け又は塗布し、仕上塗料を吹付け又は塗布する工法である。標準仕上げと防滑仕上げがある。	

*1：立上り部はX-2を適用する。

【開発の趣旨】

塗膜防水工法は小回りがきき、適用性に優れた工法であり、改修工事にも広く用いられる。特にかぶせ工法による改修は、既存防水層撤去に比べて廃棄物を出すこともなく工事を進めることができ、環境面、コスト面からみても望ましい工法である。

現在改修塗膜防水材として、ウレタン系のものが多く使用されているが、その硬化塗膜は条件によっては加水分解を起こし、防水層の耐久性を損なうようなことがある。また、気温5℃～10℃前後の施工環境では成膜が遅い等の問題がある。

このような現状を踏まえ、施工現場での耐加水分解性を有し、外気温5℃～10℃前後の施工環境でも、比較的短時間で成膜する2成分反応形アクリルゴム系屋根塗膜防水工法「アロンコートSQ」を開発した。

【開発目標および審査証明結果】

本技術について、前記の開発の趣旨、開発目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- (1) 防水材は、80℃の温水に1か月浸漬して、塗膜の引張強さ及び抗張積の低下が50%以下である耐水性を有すると判断される。
- (2) 防水材は、塗布量2kg/m²施工時に気温5℃の条件下で12時間以内に成膜する低温成膜性を有すると判断される。
- (3) 仕上塗料を除く防水層は、気温20℃のひび割れ追従性試験において、初期に8mm以上のひび割れ追従性を有すると判断される。
- (4) 本工法の性能を確保するための施工マニュアルが整備されており、施工体制が確立していると判断される。

【本技術の問合わせ先】

東亜合成株式会社／建材・土木部

TEL 03-3597-7341／FAX 03-3502-1452